



9月29日(水)

## 病院にロビーチェア20台寄贈

当JAではこのたび、地域貢献活動の一環として北秋田市民病院へロビーチェア20台を寄贈しました。

本取り組みは、JA共済連秋田が2016年度から始めた「地域・農業活性化事業」の助成を受け、当JAが地域の暮らし・営農に貢献することを目的とした地域貢献活動の一環です。

29日には、病院で贈呈式が行われ、小笠原組合長や役員6人が、JAのロゴと『地域の皆様の笑顔が広がる未来を目指して』とキャッチフレーズが入ったロビーチェア20台を寄贈しました。

北秋田市民病院では、新型コロナウイルスの影響による飛沫感染や接触感染を予防するため、待合空間のイスには一定の間隔を空けて座っていただいておりますが、混雑時にイスが不足することもあったそうです。

小笠原組合長は「皆さんが安心できる待合空間になるよう役立てていただければ幸いです」と述べ、これを受け北秋田市民病院の神谷彰院長は「イスの数が足りずに困っていたのでとてもありがたい。患者さんからも要望があったので大変感謝しています」と謝辞を述べ

ました。

同JAでは、今年7月に管内の寺院へ車イス21台を寄贈したほか、同事業を活用し、保育園や小学校などの催事への協賛、JA青年部・女性部の活動の支援を行っています。

JA担当者は「今後も皆さまのお役にたてるような活動をしていきたい」と意欲を示しました。



1階の待合空間に設置されたロビーチェア（前列）

10月6日(水)

## 田んぼアート稲刈り

田んぼをキャンパスに見立てて、色が異なる稲を植えて巨大な絵を作り出す田んぼアートの稲刈りが北秋田市の縄文小ヶ田駅近くの田んぼで行われました。

田んぼアートは内陸線の利用に結び付けることを目的に、秋田内陸活性化本部や県の北秋田地域振興局、仙北地域振興局、秋田内陸縦貫鉄道、沿線自治会などが協力して2012年度から毎年制作されています。

田んぼアートは今年で10年目を迎え、北秋田市鷹巣-仙北市角館間を走る秋田内陸線沿線の北秋田市内3カ所（平里地区、小淵地区、小ヶ田縄文駅前）のほか、仙北市内2カ所の計5カ所で実施され、それぞれ違う絵柄が観光シーズンを盛り上げました。

小ヶ田縄文駅前の稲刈りには、地域住民や地域振興局の職員、北秋田市立清鷹小学校の5年生など60人が参加し、伊勢堂岱遺跡マスコットキャラクター「いせどうくん」と北秋田市ふるさと大使「ハローキティ」が描かれた田んぼアートの中で稲を刈り取りました。途中、列車が通過すると参加者が乗客に手を振る場面も見られました。

参加した児童は「遠くから見ると分からなかったけど稲の高さが場所ごとに違って驚いた。来年の絵柄が楽しみです」と話しました。

小ヶ田縄文駅近くには、今年、ユネスコ世界文化遺産へ登録された「伊勢堂岱遺跡」があり、今後内陸線の利用者増加や観光客誘致にも大きな期待が寄せられています。



ハローキティの田んぼアートを刈り取る児童たち

9月24日(金)

## 『家の光』普及実績 J A表彰

当 J Aはこのたび、令和2年度『家の光』普及実績表彰において「累計部数実績表彰」を受賞しました。

同表彰は『家の光』普及増部数（令和2年度累計部数-令和元年度累計部数）が秋田県上位の J Aを表彰するもので、当 J Aは134部増の実績となりました。

24日には、本店で表彰式が行われ、J A秋田中央会の担当者より小笠原組合長へ賞状が授与されました。本来であれば、秋田県家の光大会にて表彰式が行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から大会を中止し、各 J Aで表彰式が行われました。

当 J Aでは家の光11月号時点での購読状況は350部となっています。

J A担当職員は「家の光の魅力や読んでもらうための普及活動が受賞につながってうれしい。今後も部数を伸ばしていけるよう頑張りたい」と話しました。



累計部数実績表彰を受賞し賞状を受け取る小笠原組合長

10月17日(日)

## 新米祭りを開催

「J A産直おおいこ」では、令和3年産米の新米、J A秋田たかのす産「あきたこまち」の販売を開始しました。

10月17日には、直売所で新米祭りが開催され、店頭では一袋30kg入りと5kg入りの新米を特別価格で販売したほか、新米を使ったおにぎりも提供され、来場者から好評を集めました。

新米を購入した女性客は「地元でとれた新米を楽しみにしていた。あきたこまちの美味しさを県外に住む親戚にも味わってもらいたい」と話しました。



新米祭りで提供されたあきたこまちのおにぎり

10月21日(木)

## 米価下落を受け 緊急要請書を提出

2021年産米の概算金が引き下げられたことを受け、秋田たかのす農協農政対策本部は、北秋田市役所を訪問し津谷永光市長に「米価下落に対する緊急要請書」を提出しました。

要請書には、政府主導で緊急対策を講じることや、2022年産以降の米対策への万全な予算措置を国に働き掛けることなど5項目が盛り込まれています。

小笠原隆志組合長が「米価の下落は農家にとって大変な苦しみ。農協としても市に働き掛けることにした」と、市長へ要請書を渡すと、津谷市長は「農家からも声が上がっており、しっかり受け止めたい」と話しました。

翌22日には、上小阿仁村役場を訪問し、小林悦次村長にも要請書を提出しました。



津谷市長に要請書を手渡す小笠原組合長  
(左から津谷市長、小笠原組合長、成田常務、田村常務)